

令和7年
2025年

10月3日
金曜日

第11806号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6カ月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



自民党、畜酪委で国産飼料のヒアリング第2回開催……P3

- ▶【10月の相場見通し】鶏肉、輸入牛内臓、素畜…P2
- ▶畜酪委で国産飼料の生産・利用拡大ヒアリング第2回開催—自民党……P3
- ▶日本食肉流通センターが部分肉価格情報一部変更、年報・月報に和牛チルド「5」を追加……P3
- ▶[鶏肉調製品輸入8月]計4万1460tで4・2%増…P4
- ▶[ソーセージ輸入8月]計1973tで16・1%減……P4
- ▶日本食肉協会京浜ブロックが会議、ブロック長と東京支部長を選出……P5
- ▶ちくさんフードフェア実行委員会、交通渋滞対策に警備員増員など強化……P5
- ▶[都内輸入食肉在庫・8月]牛肉在庫量は前年同月比2・2%増……P6
- ▶伊藤ハム神戸青年経営研究会が定期総会を開催、全議案を可決……P6
- ▶伊藤ハムが「ポールウイナー ゆず胡椒風味」を新発売……P7
- ▶米久がおでん需要に応える「鶏の紅しょうが揚げ」を発売……P7
- ▶日本畜産物輸出促進協会が10月4～8日ドイツANUGAに出展……P7
- ▶日本畜産物輸出促進協会が10月11日「Sake Fair & Japan Food Show」に出展……P7
- ▶[輸入牛現物相場]豪州産は仕入れコスト高騰を受けて相場上昇傾向……P8
- ▶【ブロイラー市中現物相場】……P8
- ▶と畜場名簿⑦……P9
- ▶[東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]2日……P10
- ▶[各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]2日…P11

注目のヘッドライン

【10月の相場見通し】鶏肉、輸入牛内臓、素畜
…詳細はP2

畜酪委で国産飼料の生産・利用拡大ヒアリング第2回開催—自民党

自民党は、畜産・酪農対策委員会を2日に党内で開催した。国産飼料の生産や利用の拡大に関して、ヒアリングが行われた。

…詳細はP3

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社

〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12
営業一課 / ☎ (03) 3919-2929 FAX (03) 3919-2930
総務 / ☎ (03) 3919-2980 FAX (03) 3919-2941

<http://www.visceral.co.jp>

【10月の相場見通し】鶏肉、輸入牛内臓、素畜**【鶏肉】生鮮モモ徐々に上げ、ムネは高止まりが続く**

【国産鶏肉】秋らしい季節となり、生鮮モモについては煮物、鍋物での需要が高まってきた。また、揚げ物などの調理機会も増えることで月間を通してジリ高で値を上げ、最需要期の年末年始に向けて、おおむね右肩上がりでの展開となる。

スーパーなど量販店で売り場スペース、フェイス数、メニュー訴求などで価格優位性の高い鶏肉の拡販を強める動きはこの秋冬も続くものと考えられ、日経加重平均の東京相場で見ると10月中に800円前後まで値を上げる可能性が高い。

生鮮ムネについては高止まり傾向が続く。冷凍物は9月中もやや荷余り感があったことから、おおむねもちあい圏での動きとなる。

【輸入鶏肉】日本食肉輸出入協会によれば、ブラジル産鶏肉の輸入量は9月に4万3千tと前年を30・5%上回ったが、10月は3万3500t(22・8%減)と前年を大きく下回る見通し。現地価格はブラジル国内の需要増などから高値が続く。

また、タイ産については8~10月の輸入量が前年を下回る見通しであることに加え、タイ・カンボジア間の国境紛争の影響から生産面でワーカー不足なども危惧されている。ブラジル産、タイ産ともジリ高での推移が予測される。

【輸入牛内臓】引き続きタンは堅調、白物は下旬以降に上げ

秋らしい気候になる時期は例年よりも遅れることが濃厚で、鍋物商材の動き出しにも影響してくるか。内臓の中ではタンの堅調さが目立つ。焼き肉用途での需要はもちろんだが、猛暑での売り場作りとして「冷しゃぶ」などが売り場の中心を占めていたため、牛タンを単価アップのための重点商品として注力した店舗も。10月は棚替えのシーズンだが、以前と比べると“焼き材からスライスへ”という季節の変わり目は実感しにくい。

加えて、牛タンはインバウンド需要も高まっており、外食向けの引き合いも堅調。ポーションの大きい「厚切り」のニーズの高まりもあって高値圏での推移が続く。白物は鍋物用途の葉物野菜の

価格が落ち着いていることや、焼き材としても値頃感から一定の需要が続いており、下旬以降の需要期に向けて、徐々に下値を切り上げる展開か。

【素畜】和子牛は小幅で続伸、乳牛は品薄ももちあい

【和子牛】9月22日公表の市場成績(全農、速報)は全国平均(税込み、雌・去勢を含む)が8月終値から4500円高の約67万5千円(下旬を除く)と続伸。上げ幅は8月比2万円近く縮小したが、全国的な資源不足で各市場の上場数は減少傾向で需給が引き締まる。10月も強気配が濃厚。

性別では雌が5千円高の61万700円、去勢は2500円高の72万5千円。騰落状況はまちまちで、前日までに取引を終えた40市場のうち半数が8月を上回った。大産地では北海道がいずれも反落。南九州は8月に開催市なかった宮崎県が上げた一方、鹿児島県は下落市場が目立った。

10月も和牛資源の不足感など供給減を理由に相場は小幅に上げるか。枝肉販売環境は回復道半ばだが素畜の品薄感は強く、肥育業者らは牛舎への補充買いを優先せざるを得ない状況。全国平均は去勢で72~73万円、雌は61~62万円とみる。

【乳子牛】9月は残暑の影響があったものの、依然として全国的に出荷頭数が減少していることや外食需要が高まったことで乳牛去勢枝肉相場は8月価格のもちあいで推移した。乳雄素牛の取引価格は上場頭数が減少する中、規格外牛に値が付かなかつたことで弱含みの相場で推移した。北海道主要7市場における初生ホル雄の取引概況は、上場頭数が増加傾向となったが、引き合いが強まらないことから8月価格のもちあいとなった。

10月は行楽やインバウンド需要が期待されるが、消費者の節約志向が強いことから、枝肉相場はもちあいの展開が想定される。素牛集荷見込みは依然として需給が逼迫すると思われる中、例年のない猛暑の影響で規格外牛が増加するとみられることから、9月価格の据え置きとみる。北海道内における初生ホル雄についても9月並みと思われる。また交雑種は雌38万円前後、去勢42万円前後の展開が予想される。

畜酪委で国産飼料の生産・利用拡大ヒアリング第2回開催—自民党

自民党は、畜産・酪農対策委員会を2日に党内で開催した。日本酪農政治連盟、(株)岩切畜産業、(株)グリーンネットワークとどろぎ、酪農とちぎ農業協同組合、北海道TMRセンター連絡協議会が参加し、国産飼料の生産や利用の拡大に関して、ヒアリングが行われた。

冒頭、築和生畜産・酪農対策委員長(写真中央)は「先般、第1回を開催した本委員会では、畜産酪農経営の中で自給飼料の生産と利用拡大が、国際情勢に左右されにくい経営基盤を作る上で非常に重要だという認識の下で、現場の皆さまから忌憚のない意見をいただいたところである。先般は飼料米、今回は粗飼料ということで、WCSや青刈りとうもろこしを中心に話を伺いたい。これまで耕畜連携で長年にわたり現在の体制を作ってきたいただいたことを、今後もしっかりと支援し継続していくことが重要であると認識し、本日もこれからの畜産酪農経営を支えていく政策を作るべく議論を深めてまいりたい」と述べた。

続いて、宮下一郎総合農林政策調査会長が「食料安全保障の強化については、飼料が占める役割は非常に大きいと認識しており、この基盤が崩れると自給率の低下、食料安全保障の危機に直結する問題であるので、皆さまに安心して生産していただける基盤と体制をどう整備していくのかや、農業構造転換集中対策5カ年の中で、どんな変革をもたらすのかなどの政策をしっかりと提議していきたい」とあいさつ。



続いて議事に移り、参加企業・団体による飼料の生産・利用の拡大に関する取り組みが資料を基に発表された。本紙関連では宮崎県の岩切畜産業が参加。地域の特徴として、肉用牛が市内全域で飼養されており、優良子牛の産地として全国的に高い評価を受けるとともに、耕畜連携による自給粗飼料確保の取り組みは県内でも先駆的な地域であることや、経営の特徴として①現在、繁殖牛の粗飼料自給率は100%となっている②粗飼料のみならず濃厚飼料についても自給化を進めるため、平成26年から飼料用米を生産し、県内で初めてもみ米サイレージ(SGS)の生産・調製・繁殖牛、肥育牛への給与に取り組み、平成29年には新たに二条大麦のSGS化に取り組んでいる③耕畜連携の取り組みとして、飼料用米生産を委託している生産者に対して堆肥散布^{ぶんべん}を行っている④肉用牛の繁殖成績も良好で、平均分娩間隔12・8カ月と1年1産をおおむね達成していること一などが報告された。

日本食肉流通センターが部分肉価格情報一部変更 年報・月報に和牛チルド「5」を追加

公益財団法人日本食肉流通センターは1日、部分肉価格情報の公表サイト「部分肉価格情報専門チャンネル」の月報と年報の公表項目を一部変更すると発表した。

食肉流通の現状を踏まえ、和牛チルドに「5」および「全等級」を追加するほか、現在の和牛チルド「3」を

削除する。公表部位について、取引量が少ないために価格の公表とならない「骨付ロイン」「骨付トモバラ」の表記を廃止するとともに、4地域について公表可能な部位をそろえる。また、年次表記を和暦表示から西暦表示に変更する。市況速報については、和牛「4」のまま変更はない。

[鶏肉調製品輸入 8月] 計4万1460tで4・2%増

8月の鶏肉調製品の輸入通関実績は、計4万1460t(前年同月比4・2%増)と前年を上回った。前月からは8567t減少した。国別ではタイが2万5506t(3・5%

増)と増加。中国も1万5023t(3・9%増)と増加した。そのほか韓国が47t(21・5%減)、ブラジルが19t(50・0%減)となった。

鶏肉調製品輸入の推移

単位：トン、()内は前年比%

	中国	タイ	ブラジル	韓国	米国	フィリピン	合計
2022年計	192,373 (109.3)	326,751 (109.3)	1,925 (110.6)	1,028 (93.3)	117 (55.8)	33 (71.4)	525,762 (109.4)
2023年計	173,673 (90.3)	297,810 (91.1)	558 (29.0)	1,201 (116.8)	100 (85.5)	- (-)	477,983 (90.9)
2024年計	187,156 (107.8)	307,850 (103.4)	490 (87.8)	1,081 (90.0)	57 (57.2)	- (-)	503,188 (105.3)
2024年8月	14,464 (99.9)	24,641 (96.7)	38 (100.0)	60 (165.2)	- (-)	- (-)	39,797 (98.6)
9月	16,795 (112.3)	22,519 (88.9)	56 (892.6)	65 (82.7)	14 (-)	- (-)	39,880 (97.7)
10月	17,078 (114.2)	29,949 (118.2)	76 (-)	135 (170.6)	- (-)	- (-)	47,902 (117.4)
11月	18,464 (117.7)	27,000 (96.5)	- (-)	119 (57.3)	14 (-)	- (-)	46,192 (104.1)
12月	17,440 (105.6)	27,278 (101.2)	19 (13.6)	209 (205.5)	- (-)	- (-)	45,580 (102.9)
2025年1月	13,978 (84.6)	23,775 (88.2)	38 (27.3)	109 (107.2)	- (-)	- (-)	38,628 (87.2)
2月	10,522 (79.5)	22,713 (104.6)	19 (24.7)	27 (29.1)	- (-)	- (-)	33,788 (94.7)
3月	16,674 (126.1)	25,989 (106.2)	99 (521.2)	32 (56.4)	14 (100.0)	- (-)	43,537 (113.6)
4月	16,940 (100.9)	25,048 (92.5)	19 (51.2)	38 (25.1)	- (-)	- (-)	43,306 (97.0)
5月	15,343 (109.3)	26,836 (102.8)	23 (59.8)	43 (65.9)	- (-)	- (-)	43,252 (106.1)
6月	16,990 (109.3)	26,095 (98.6)	18 (96.3)	27 (118.1)	13 (90.0)	- (-)	44,048 (103.4)
7月	20,587 (108.2)	28,425 (102.2)	16 (17.0)	45 (135.6)	14 (-)	- (-)	50,027 (105.4)
8月	15,023 (103.9)	25,506 (103.5)	19 (50.0)	47 (78.5)	- (-)	- (-)	41,460 (104.2)

[ソーセージ輸入 8月] 計1973tで16・1%減

8月のソーセージ輸入通関実績は計1973t(前年同月比16・1%減)で大幅な減少となり、前月比では28t減となった。国別では米国が594t(20・5%増)、タ

イは468t(3・8%増)と前年を上回ったが、中国は470t(0・8%減)、ブラジルは228t(63・8%減)、デンマークは39t(70・7%減)と減少した。

ソーセージ輸入量の推移

単位：トン、カッコ内前年比%

	中国	タイ	米国	ブラジル	デンマーク	合計
2022年計	5,610(91.7)	7,066(106.9)	6,321(88.3)	6,422(174.6)	1,347(114.3)	28,444(106.2)
2023年計	5,104(91.0)	6,721(95.1)	6,470(102.4)	4,544(70.8)	1,230(91.3)	25,580(89.9)
2024年計	5,162(101.1)	5,975(88.9)	6,637(102.6)	5,730(126.1)	1,197(97.3)	26,196(102.4)
2024年8月	474(92.8)	451(89.5)	493(60.8)	629(147.7)	133(102.3)	2,351(92.4)
9月	468(100.9)	499(88.0)	450(88.8)	516(145.4)	83(180.4)	2,104(101.7)
10月	400(75.2)	634(110.5)	490(88.9)	692(163.6)	37(63.8)	2,384(106.8)
11月	491(130.2)	400(71.7)	570(113.1)	663(235.9)	101(69.7)	2,325(114.8)
12月	567(115.7)	396(61.1)	677(104.6)	383(123.2)	166(190.8)	2,343(102.3)
2025年1月	576(169.9)	357(79.7)	389(113.7)	422(140.2)	112(533.3)	1,990(128.3)
2月	296(83.2)	488(87.9)	381(90.0)	643(197.7)	126(212.5)	2,036(114.0)
3月	516(147.6)	570(112.5)	647(125.0)	842(206.9)	54(70.4)	2,772(139.6)
4月	557(134.7)	514(99.6)	644(83.1)	776(150.1)	65(41.7)	2,726(107.4)
5月	528(113.8)	366(72.9)	521(80.5)	685(196.3)	14(10.8)	2,260(103.1)
6月	477(119.0)	452(92.2)	482(76.3)	713(138.2)	63(87.5)	2,307(103.4)
7月	547(124.6)	526(91.2)	561(90.6)	248(57.4)	36(22.5)	2,001(83.2)
8月	470(99.2)	468(103.8)	594(120.5)	228(36.2)	39(29.3)	1,973(83.9)

日本食肉協会京浜ブロックが会議、ブロック長と東京支部長を選出

一般社団法人日本食肉協会京浜ブロック会議が9月28日、東京都港区のTKPガーデンシティPREMIUM品川HEARTカンファレンスルームで開催された。

会議では「食肉流通の課題とその対応～肉屋で人を幸せにする・これからの消費拡大のために～」をテーマに、本部の布川勝一会長から各種報告が行われ、「11月に開かれる全国会議に向けて親睦を深めていくとともに、それぞれから提案が挙げれば農林水産省や厚生労働省にも働きかけを行っていききたい」などとあいさつした。

今後のスケジュール確認では、全国会議で出席者のディスカッションや論文発表、講演内容などに言及するとともに、前夜に開催される研修ツアーについて協議。また、海外視察ツアーでは欧州で最も食の歴史が深いといわれるフランス・バスク地方を訪問することが告げられ、次回にはアルゼンチン、次々回にはニューヨークを訪れることが報告された。

また、ブロック長および東京支部長が相次いで辞任したため、新たに京浜ブロック長として杉崎正浩氏、東京支部長として市村恭庸氏をそれぞれ選出。小憩の後、(株)食肉通信社編集部の黒田亮部長が「近年の食肉需給と相場動向」「西日本を中心に特徴的な販



売手法を展開する食肉関連企業」について資料を用いて講演を行った。

講演ではまず食肉需給と相場動向について説明。諸物価高騰と節約志向の強まりの中、食肉の分野でも牛肉から豚肉、さらに鶏肉への需要シフトが顕著になっており、輸入食肉の高止まりもあって全体的に“真ん中”の価格帯に需要が集中していることが述べられ、この傾向は当面続く見通しだと語られた。

また、西日本で特徴的な販売を展開する食肉関連企業では、講師自身の取材経験からみた複数の企業を紹介。商品開発や販売促進、業態転換などを工夫しながら業績を向上させている事例や、生産にも携わりながら独自の発想力により企業の方向性を良い方向に向けている事例などが披露された。

ちくさんフードフェア実行委員会、交通渋滞対策に警備員増員など強化

第2回ちくさんフードフェア実行委員会(川合靖洋会長)が9月30日、公益財団法人日本食肉流通センターで行われた。会長あいさつに続き、10月11～12日に行われる第40回ちくさんフードフェアの内容や交通渋滞対策について、また同時開催されるジャパンミートピアと川崎みなと祭りについての説明が行われた。

フェアには、食肉流通センター出店者や畜産関係団体などが出展するほか、一般消費者に対する食肉関係等情報知識の普及やフェアによる食肉関係等情報知識の理解の状況、効果などを推計するためアンケートも実施する。また、「We Love FUKUSHIMA!!」をテーマに、隣接する東扇島中公園のBBQ広場に「福島牛焼き肉コーナー」を設け、試食を通じて、被災から14年を経てもいまだに残る風評

被害を払拭するため、消費者への福島牛のPRを実施する。試食は2日間100kg、1人当たり50g程度、各日11時と14時の2回に分け、2日間で2千人分の提供を目標としている。

委員会では、昨年の反省から交通渋滞対策を最重要課題と捉え、同時開催の川崎みなと祭り事務局と協議を重ね、東扇島内の警備体制などを整備した。具体的には、警備員を昨年より46人増員した97人体制とし、誘導看板を設置。また、来場者駐車場への入場ルートを2ルート化(川崎方面と高速道路の来場者をそれぞれ別ルートに誘導)し、来場者駐車場への入口を2カ所にした。その他、フェアの安全管理・衛生管理や火気類の取り扱い、衛生管理、天候不順・災害時の対応などについて説明が行われた。

【都内輸入食肉在庫・8月】牛肉在庫量は前年同月比2・2%増

東京冷蔵倉庫協会が公表した8月の都内食肉在庫によると、牛肉は入庫が1万6838t、出庫が1万5324t、在庫が5万9887tとなった。前年同月比では2・2%

増となり、前月を上回った。

豚肉は入庫が3万6892t、出庫が3万6898tで在庫が11万3869tとなった。前年同月比では10・0%増

となり、前月は下回った。

一方、鶏肉は入庫が1万6818t、出庫が1万5871t、在庫が4万3743tとなった。前年同月比では8・8%減となり、前月を上回った。

シーズンドポークなどを含むその他畜産・畜産加工品は、入庫が6092t、出庫が5462tで在庫が1万3154tとなった。前年同月比では7・2%減となり、前月を上回った。

東京都の輸入食肉月末在庫(保税在庫)

単位:トン、%

	牛肉	豚肉	鶏肉	羊肉	馬肉	その他畜産物
7月	58,608	103,508	47,983	2,006	902	14,175
8月	59,263	106,481	58,702	1,851	922	14,138
9月	59,533	107,471	53,718	1,739	975	15,607
10月	56,840	108,695	56,280	1,395	895	16,576
11月	53,982	103,585	55,792	1,210	1,010	14,917
12月	51,457	97,434	53,222	1,013	1,050	13,472
令和7年1月	52,496	99,162	55,020	1,075	1,118	13,690
2月	51,918	100,155	54,348	1,087	1,202	13,136
3月	53,673	99,231	48,832	1,217	1,133	12,669
4月	52,205	97,559	45,138	1,257	1,016	12,105
5月	55,206	109,231	45,349	1,667	1,080	12,856
6月	56,037	112,879	45,549	1,683	1,113	12,583
7月	56,373	113,902	42,796	1,568	1,136	12,524
令和7年8月入庫	16,838	36,892	16,818	715	210	6,092
出庫	15,324	36,898	15,871	772	258	5,462
在庫	59,887	113,869	43,743	1,511	1,088	13,154
前年同月比	102.2%	110.0%	91.2%	75.3%	120.6%	92.8%

伊藤ハム神戸青年経営研究会が定期総会を開催、全議案を可決

伊藤ハム神戸青年経営研究会(池尾昌明会長＝下写真)は9月30日、神戸市中央区の神仙閣で第24回定期総会を開催。議事では24期事業計画案など上程全議案を原案通り可決した(上写真)。

総会では池尾会長のあいさつに続き、議案審議が進められ第23期事業経過報告、同会計報告・会計監査報告、第24期事業計画案、同収支予算案、その他について原案通り可決。研究会の今後の在り方についても協議し、武中克仁氏が閉会の辞を述べて総会を終了した。

小憩の後に開かれた懇親会では池尾会長が「今後も勉強会などの活動を継続していきたいが、会員数が減少傾向にある。良い方向を目指すために、さまざまな形を模索していきたい」などとあいさつした。

来賓では兵庫県食肉公正取引協議会の米政伸理事長、伊藤ハム神戸青年経営研究会OB会の松本茂吉会長、伊藤ハム販売西(株)の稲継利之常務、伊藤ハム販売(株)の立田淳取締役関西営業部長がそれぞれの立場から祝辞。来賓紹介、祝電披露に続き、神戸食



肉事業協同組合の岸本七江理事長による乾杯発声、伊藤ハムミート販売西(株)兵庫センターの小塚晋一郎センター長による万歳三唱で懇親に移った。和やかな雰囲気の中、最後に岸田圭司副会長による中締めで懇親会を終了した。



伊藤ハムが「ポールウィンナー ゆず胡椒風味」を新発売

伊藤ハムは1日、1934年に発売し今年で91年目を迎えるロングセラー商品「ポールウィンナーソーセージ」から、新フレーバー「ゆず胡椒風味」を秋冬の期間限定で発売した。

春夏に限定で発売し、好評となった「ホットチリ味」に続き、第2弾で秋冬限定の「ゆず胡椒風味」を発

売。ポールウィンナーの味わいはそのままに、肉と相性の良い「ゆず胡椒」がふわっと香り、加熱をしなくてもそのまま食べられることから、酒のつまみにお勧めの商品となっている。



米久がおでん需要に応える「鶏の紅しょうが揚げ」を発売

米久は9月27日、本格鍋シーズン前のおでん需要にマッチした、まるでさつま揚げのような食感の「鶏の紅しょうが揚げ」を発売した。

秋冬の定番メニュー「おでん」の需要が高まる中、鶏肉をベースに、豚肉、シャキシャキ食感のたけのこ、甘みのある玉ねぎ、アクセントとなる紅しょうがを加えて練ったものを揚げて蒸し上げた、豊かな食感と味わいが楽しめる一品。

「鶏の紅しょうが揚げ」は、1粒約20gの中粒サイズで、食卓の主菜にも副菜にもぴったり。揚げて蒸すことで、煮崩れしにくくし、1時間煮込んでも形を保つ。ぼん酢しょうゆをかけてそのままつまみに、またはおでんの具材としてもお勧め。パッケージには二つのメ

ニュー提案を掲載し、調理イメージしやすい工夫も施している。

近年、味のアクセントとして注目されている「紅しょうが」を加えた同商品は、原料肉を細びきにすることでしっかりと食感と風味豊かな味わいを実現。紅しょうがの酸味と塩味が、たけのこや玉ねぎと絶妙にマッチし、飽きのこない味に仕上がっている。



日本畜産物輸出促進協会が 10月4～8日ドイツ ANUGA に出展

一般(社)日本畜産物輸出促進協会(井出道雄会長)は10月4～8日、ドイツ・ケルンで開催される「ANUGA2025」のMeatパビリオンに日本産和牛のブースを設置し、来場者のレストラン関係者、バイヤー

を対象に、日本産和牛の品質の高さや新たな魅力を訴求するとともに、QRコードを用いた和牛品質情報提供システムの普及・啓発やカッティングデモ、現地有名シェフによる調理実演、試食を行う。

日本畜産物輸出促進協会が 10月11日「Sake Fair & Japan Food Show」に出展

一般(社)日本畜産物輸出促進協会(井出道雄会長)は10月11日、オーストリア・ウィーンで開催される「Sake Fair & Japan Food Show」に出展し、来場

者のレストラン関係者、小売業者らを対象に、日本産和牛の品質の高さや新たな魅力を訴求するとともに、試食などPR活動を行う。

【輸入牛現物相場】豪州産は仕入れコスト高騰を受けて相場上昇傾向

豪州産チルドは通関切れで9月下旬に品薄感が解消して以降、荷動きは鈍っているが、現地価格の上昇を受けて、全体的に相場は上昇傾向。相場帯の上限値は前週を据え置きながら、下限値を引き上げている

	商品名	グラス	ショートグレイン
豪州産C	トップサイド	1,280 ~ 1,380	1,400 ~ 1,480
	シックフランク	1,350 ~ 1,450	1,450 ~ 1,500
	アウトサイド	1,300 ~ 1,350	1,350 ~ 1,400
	ポイント	1,280 ~ 1,350	1,350 ~ 1,450
	ナーベル	1,100 ~ 1,150	1,200 ~ 1,250
	ランプ	1,600 ~ 1,650	1,750 ~ 1,950
	クロッド	1,330 ~ 1,380	1,380 ~ 1,450
	チャックロール	1,400 ~ 1,450	1,580 ~ 1,680
	チャックテンダー	1,400 ~ 1,500	1,500 ~ 1,600
	キューブロール	3,000 ~ 3,500	4,000 ~ 4,500
	ストリップロイン	2,350 ~ 2,450	2,600 ~ 2,700
テンダーロイン	4,200 ~ 4,400	4,700 ~ 5,000	
豪州産F	チャック&ブレード	-	-
	ポイント	1,280 ~ 1,350	-
	ナーベル	1,050 ~ 1,150	-
	カウミート	1,100 ~ 1,200	-
	トップサイド	1,250 ~ 1,350	-
	シックフランク	-	-

印象だ。もともと末端の動きが良かったわけではないが、引き続き消費の上向きには厳しい環境となりそうだ。米国産チルドは引き続きチャックアイロールに引き合いがあり、在庫はタイト。ショートプレートも今後上昇するとみられる。

フローズンは、豪州産ではひき材中心の引き合いで、その他は弱い。米国産はショープレで一定の動きがあるが、相場が上昇しており、今後の引き合いは不透明だ。

	商品名	チルド	フローズン
米国産	スクウェアカットチャック	-	-
	ショルダークロッド	1,700 ~ 1,800	1,550 ~ 1,650
	ショートプレート	1,100 ~ 1,250	1,000 ~ 1,050
	ボンレスショートリブ(チョイス)	5,850 ~ 6,000	-
	ボンインショートリブ	-	-
	チャックリブ(チョイス)	2,400 ~ 2,600	2,300 ~ 2,400
	ストリップロイン(チョイス)	4,000 ~ 4,500	-
	リブアイロール(リップオン)	5,000 ~ 5,500	-
	テンダーロイン	5,200 ~ 6,000	-
	ステーキレディ	-	-
	チャックアイロール(チョイス)	2,200 ~ 2,500	-
	同(プライム)	2,400 ~ 2,600	-

【ブロイラー市中現物相場】タイ産モモ正肉、カット物とも堅調 現地の人手不足も影響

◇国産物 日経加重平均の東京相場は9月30日に生鮮モモが725円、生鮮ムネは559円といずれも弱含みの値動きとなったが、量販店の特売など月末特有の動きも背景となっているようだ。

全国的な気温の低下もあり、鍋需要も徐々に増加。生鮮モモはおおむねジ

ブロイラー現物相場 単位:円/キロ

国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	600~650
ムネ正肉(〃)	410~490
手羽モト(〃)	300~350
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	380~500

り高、高止まり感のある生鮮ムネはもちあいでの推移が予測される。

◇輸入物 ブラジル産、タイ産共に国内消費が旺盛

輸入物 単位:円/キロ	
米国産モモ正肉(240gUP)	460中心
米国産ジャンボレッグ(350gUP)	350中心
米国産BIL	550~570
ブラジル産モモ正肉	450~470
ブラジル産モモ角切り	450~470
ブラジル産皮なしモモ正肉	470中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	430~450
ブラジル産手羽サキ(50gUP)	600中心
タイ産モモ正肉	500中心
タイ産モモ角切り(25~30g)	500中心
米国産モモ串	玉なし

なことから現地価格は高値が続いている。カンボジアとの国境紛争の影響などから生産現場でのワーカー不足もあり、タイ産モモ正肉、カット物ともやや値を上げた。ブラジル産についても下げ要因は少ない。

と畜場名簿⑦

と畜場名簿

(令和7年4月1日現在)

都道府県	事業者名	種別	住所	開設年	羽数	備注
岡山県	(株) ウェルファームズ岡山事業所	ブロイラー	岡山県新見市西方1567	2001	5	1000万羽
岡山県	(株) グリーンポーター	ブロイラー	岡山県苫田郡鏡野町下原1647-1	2012	8	540万羽
岡山県	(株) ヤマシヨウファーム岡山工場	成鶏	岡山県津山市東一宮字八反河原905	2005	3	100万羽
岡山県	アラカワ食鳥	成鶏	岡山県井原市七日市町3961-1	2016	1	120万羽
岡山県	(有)力食鳥	成鶏	岡山県井原市七日市町3982-1	2007	12	240万羽
広島県	ブライフォーズ株式会社三原工場	ブロイラー	広島県三原市新倉2-16-1	1992	4	350万羽/年
広島県	サイコロ物産株式会社	ブロイラー	広島県安芸高田市高宮町羽佐竹869	1996	4	150万羽/年
山口県	農事組合法人山口食鳥センター	ブロイラー	山口県岩国市周東町下久原697番地2	2013	5	100万羽/年
山口県	深川養鶏農業協同組合	ブロイラー	山口県長門市東深川505-1	1992	1	960万羽/年
徳島県	インイ食鶏センター	ブロイラー	名西郡石井町高川原字加茂野65	1998	1	500万羽/年
徳島県	株式会社 阿波どり 食鳥処理場	ブロイラー	吉野川市輪島町豊米667番地6	2010	3	390万羽/年
徳島県	まるぼ食品株式会社徳島工場	ブロイラー	美馬市美馬町字水久保5-2	1992	3	408万羽/年
徳島県	貞光食糧工業株式会社食品工場	ブロイラー	美馬郡つるぎ町貞光字小山北168-2	1992	3	1126万羽/年
徳島県	オランダン農業協同組合食鶏産地格付包装流通センター	ブロイラー	海部郡海陽町大井字大谷11番地	1992	3	400万羽/年
香川県	香川県農業協同組合食鳥センター	ブロイラー	香川県丸亀市川西町南字中方甲1171	1992	3	3,500,000羽/年
高松市	古田食品工業株式会社	ブロイラー	香南町58番地	1992	3	700000羽/年
高松市	株式会社山食	成鶏	鯨田町125番地2	2021	10	500000羽/年
高松市	有限会社岡食鳥	成鶏	下田井町537番地4	2024	10	700000羽/年
愛媛県	マルハフーズ株式会社 宇和工場	ブロイラー	愛媛県西予市宇和町信里991	2013	10	2,500羽/日
松山市	(株) ビジョイアブロイラー事業部	ブロイラー	松山市南吉田町2301-1	2008	8	6,240,000羽/年
高知市	高知県食鶏農業協同組合	ブロイラー	高知市大津1756-1	1993	1	3212000(羽/年)
福岡県	株式会社ヤマシヨウファーズ	成鶏	八女市豊福241-2	1994	9	2,000,000 (羽/年)
福岡県	株式会社あらい	成鶏	古賀市青柳3272-17	1994	11	500,000 (羽/年)
久留米市	農事組合法人福栄組合	ブロイラー	福岡県久留米市北野町高良1369-3	2018	3	823000 (羽/年)
久留米市	株式会社トリアンファーズ	成鶏	福岡県久留米市梅溝町1679-1	1993	6	14440000 (羽/年)
佐賀県	株式会社佐賀ブロイラー	成鶏	佐賀市高木瀬町長瀬2307-1、2308-3	1993	4	215万羽/年
佐賀県	株式会社ヨコオ 蔵木工場	ブロイラー	唐津市蔵木町中島845-4	1992	4	452.7万羽/年
佐賀県	トリゼン食鳥肉協同組合	ブロイラー	唐津市双水1782番地1	2002	8	391.5万羽/年
佐賀県	(株) JAフーズさが 伊万里チキンファーズ工場	ブロイラー	伊万里市東山代町日尾342	1992	4	813.0万羽/年
佐賀県	ありた株式会社	ブロイラー	西松浦郡有田町立部乙10番地1	2001	4	222.5万羽/年
長崎県	長崎ブロイラー産業(株)	ブロイラー	諫早市栄田町21-22	1992	4	14,500,000羽/年
長崎県	長崎福鳥(株) 諫早営業所	ブロイラー	諫早市員津町1593	2001	1	3,000,000羽/年
長崎県	(株) 大光食品島原工場	ブロイラー	島原市有明町大三東丁296番地1	1992	3	1,200,000羽/年
佐世保市	佐世保ブロイラーセンター株式会社	ブロイラー	佐世保市有福町94-2	1992	4	720,000羽/年

資料：厚労省

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 10月2日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,052	2,256	2,160	-	-
		安値	2,208	2,011	2,069	-	-
		平均	2,488	2,198	2,109	-	-
		49頭 頭数	32	13	4	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
		-頭 頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,241	2,346	2,161	1,895	-
		安値	2,206	2,036	1,994	1,838	-
		平均	2,466	2,246	2,072	1,865	-
		190頭 頭数	143	38	7	2	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	1,945	-	-	-	
	1頭 頭数	-	1	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭 平均	-	-	-	-	-	
	雌 C -頭 平均	-	-	-	-	-	
	去 B 7頭 平均	-	-	-	1,179	-	
	去 C 4頭 平均	-	-	-	1,159	-	
交雑牛	雌 B	33頭 平均	-	1,626	1,518	1,428	-
		頭数	-	3	14	16	-
	雌 C	3頭 平均	-	-	-	1,385	-
		頭数	-	-	-	3	-
	去 B	26頭 平均	-	1,740	1,553	1,495	-
		頭数	-	7	13	6	-
去 C	4頭 平均	-	-	1,475	1,395	-	
頭数	-	-	3	1	-		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜	333	1,157	-	(競り)	(相対)	
売買	412	786	201.5	-	11	71

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,335	1,743	1,771	1,479	-
	B	-	1,581	1,349	1,223	1,201
和 去	A	2,401	2,190	2,041	1,520	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	-	1,021
	C	-	-	-	-	989
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,673	1,522	1,434	-
	C	-	1,506	1,434	1,444	-
交 去	B	1,841	1,703	1,561	1,405	-
	C	-	-	1,510	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	631	644	596	564	551
	安値	595	529	518	490	216
	平均	616	567	549	542	524
	頭数	(7)	(273)	(315)	(71)	(120)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
搬入相対	高値	-	-	-	-	578
	安値	-	-	-	-	578
	平均	-	-	-	-	578
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(11)

[大阪食肉卸売市場] 10月2日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,526	2,169	-	-	-
(頭数)	(9)	(3)	(-)	(-)	(-)
B	2,168	-	-	-	-
(頭数)	(2)	(-)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,382	2,035	1,982	-	-
(頭数)	(9)	(3)	(2)	(-)	(-)
B	-	2,106	-	-	-
(頭数)	(-)	(2)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,791	1,569	1,475	-
C	-	1,620	1,547	1,508	-
交雑去 B	-	1,719	1,614	1,474	-
C	-	1,674	1,482	1,473	-
豚	-	619	604	479	422

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	10月2日	10月1日	(10月累計)
豚	65,700	61,800	127,500
成牛計	3,990	4,550	8,540
和牛雌	990	1,220	2,210
和牛去勢	1,050	1,110	2,160
乳牛雌	820	630	1,450
乳牛去勢	310	340	650
交雑雌	410	580	990
交雑去	410	570	980

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 10月2日

東京	1,475円	(前日 1,574円)
大阪	1,546円	(前日 1,541円)

[豚・全農建値] 10月2日

上	中	取引頭数	市況
583円	565円	1,160頭	急落

と畜	牛 59頭	豚 141頭	牛概況	もちあい
売買	牛 81頭	豚 60頭	豚概況	弱もちあい

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 10月2日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	626 (626)	- (-)	6,049	-	もちあい
仙台 [中]	596 (584)	548 (545)	341	35	反発
栃木 [地]	625 (-)	602 (539)	1,472	39	強もちあい
茨城 [地]	583 (600)	558 (569)	1,350	983	反落
群馬 [地]	553 (548)	459 (463)	2,168	403	小幅高
さいたま [中]	582 (593)	572 (582)	246	247	続落
東京 [中]	567 (598)	549 (573)	1,157	786	急落
横浜 [中]	602 (609)	575 (576)	680	676	反落
山梨 [地]	639 (643)	608 (577)	218	184	もちあい
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	641 (658)	603 (599)	937	240	反落
京都 [中]	656 (-)	635 (-)	63	88	もちあい
大阪 [中]	619 (624)	604 (531)	141	60	弱もちあい
神戸 [中]	658 (605)	642 (599)	-	120	-
岡山 [地]	671 (655)	673 (665)	244	329	強気配
広島 [中]	- (629)	- (612)	367	33	-
福岡 [中]	627 (628)	595 (596)	482	143	もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 9月25日～10月1日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,850,367 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,239	1,333	1,402	1,332	84,318
うで	808	886	991	895	151,280
ロース	1,156	1,239	1,364	1,260	191,218
ばら	1,259	1,328	1,434	1,340	173,909
もも	773	842	917	843	221,894
ヒレ	1,079	1,210	1,350	1,216	10,184
セット	1,001	1,077	1,121	1,074	1,017,564

◇近畿圏 総重量 743,717 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,347	1,404	1,463	1,408	58,913
うで	739	810	868	813	120,438
ロース	1,188	1,318	1,353	1,301	94,051
ばら	1,318	1,382	1,423	1,373	139,801
もも	766	810	864	806	167,011
ヒレ	1,242	1,350	1,446	1,354	11,565
セット	999	1,111	1,199	1,101	151,938

[食鳥正肉日経相場] 10月1日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社) ※休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	664	714	1,030	6
ムネ	514	550	649	3

[農水省統計情報部食鳥市況] 9月30日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	960	793	550	600	650
安値	600	420	290	360	350
平均	732	553	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランケット判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男著
鏡 晃

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーションナリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

- 大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48 TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510
- 東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928
*東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。
- 九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12 TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995